

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年8月19日

BMJ:

妊娠中の新型コロナワクチン接種と早産、低体重出生、死産の関連：

人口ベース後顧的コホート調査

【松崎雑感】

昨日に続いて、妊娠中のワクチン接種の安全性についての論文紹介です。カナダの8万人の妊婦について、ワクチン接種有り無し（ほぼ半々）で、追跡したところ、早産、死産、低体重出生に有意差がなかったという事です。

ワクチン未接種で妊娠中にコロナに感染すると、重症化リスクが高いため、妊娠中とその予定のある方はワクチン接種を完了することをお勧めします。

妊娠中の新型コロナワクチン接種と早産、低体重出生、死産の関連：

人口ベース後顧的コホート調査

Fell DB, Dimanlig-Cruz S, Regan AK, et al. Risk of preterm birth, small for gestational age at birth, and stillbirth after covid-19 vaccination during pregnancy: population based retrospective cohort study. *BMJ*.

2022;378:e071416. Published 2022 Aug 17. doi:10.1136/bmj-2022-071416

目的

妊娠中の新型コロナワクチン接種と早産、死産、低体重出生リスクの関連を検討する

方法

人口ベース後顧的コホート調査。カナダオンタリオ州。2021年5月1日から12月31日まで追跡。早産（妊娠37週以前）、超早産（32週以前）、低体重出生（10分位の最低位）、死産の発生率。ワクチン接種時期別のアウトカム発生率を算出。

結果

85162件の出生中、43099件（50.6%）で妊娠中に1回以上の新型コロナワクチン接種。99.7%はmRNAワクチン。

妊娠中のワクチン接種と早産全体（接種群6.5%、非接種群6.9%）、自然早産（3.7%、4.4%）、超自然早産（0.59%、0.89%）に有意なリスク増加は見られなかった。

低体重出生（9.1%、9.2%）、死産（0.25%、0.44%）にも差は見られなかった。

ワクチン接種の妊娠期、ワクチン種類、接種回数による差も見られなかった。

結論

妊娠中の新型コロナワクチンが、早産、低体重出生、死産を増やすという証拠は見られなかった。